

# 衣服ロス問題の啓発のためのツール

## Tools to raise awareness of clothing loss

山崎 ひとみ<sup>1)</sup>

指導教員 西野 隆司<sup>1)</sup>

1)サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 価値創造研究室

キーワード：デザイン, 工芸, 環境問題

### 1. 研究の動機と目的

自分自身、洋服を買うことも見ることも好きで、研究内容を洋服関連にしたいと考えた。洋服について調べていると必ず見かける「衣服ロス問題」という言葉に興味を持ち、それがなぜ起きるのか・なぜ問題となっているのか・深刻化するとどのような影響があるのかという調査を行った。

本研究では漠然と知られている衣服ロス問題をより多く細かく表すことで、人々に具体的な問題や解決策をわかりやすく伝え、新しく行動へ移すことのきっかけ作りを目的としている。

### 2. 調査内容

衣服ロス問題は、アパレル業界の大量生産・大量廃棄のビジネスモデルが定着したことにより、深刻化した。日本の衣服新規供給量が計 81.9 万 t であることに對し、廃棄物は年間 50 万 t を超えると推計されている。<sup>[1]</sup>人間活動で排出される炭素の 10%が衣服生産段階で排出され、毎年 930 億 m<sup>3</sup>の水（500 万人分の生活に必要な量に相当）を使用等環境問題、大手アパレルメーカーの委託生産先の工場での低賃金・長時間労働や児童労働の問題、パワハラなど労働問題も国内外で大きな問題となっている。<sup>[2]</sup>

次に、消費者の衣服の購入について調査を行った。消費者庁 物価モニター調査によると、アパレルファッション産業の環境負荷やサプライチェーンの問題について消費者の約 6 割が具体的に知らないと回答した。認知度自体は高くないが、こうした問題をよく知っていると回答した残りの 4 割の消費者は環境に配慮した衣服を購入する割合が相対的に高いと判明した。衣服購入時にサステ

ナブルファッションに関連する要素として、「着回しのしやすさ」「耐久性」を考慮する消費者は比較的いる一方、「環境や人・社会に配慮した素材を使っているかどうか」「リサイクルやリメイクがしやすいかどうか」を考慮する割合は低い。その中でも年齢別にみれば 10 代・20 代で意識が相対的に高く、それ以外の世代で低い傾向にある。<sup>[3]</sup>

続いて、布のリサイクル方法を調べた。18%が中古衣料等としてリユースされており、5%が反毛やウエスとしてリサイクルされている。残り 77%は可燃ごみや不燃ごみとして廃棄されている。ちなみに繊維廃棄物全体のリユース率とリサイクル率の合計は 13%と、いまだに低いリサイクル率となっている。環境問題に対する人々や企業の意識の変化に合わせて回収を行う窓口は広がったが、活用方法が少なく、廃棄品は増えているとわかった。主なリサイクル方法として、ウエスへの活用・バイオエタノールへの変換が存在する。しかし、ウエスの用途は減少傾向にあり、バイオエタノールの変換も可能な衣服が少ない。リサイクル率を向上させるには、さらに多くの方法を生み出す必要がある。<sup>[4]</sup>

ウエス、バイオエタノール以外のリサイクル方法の一つに混抄紙があると知り、興味を持ち調査を行った。混抄紙とは、紙の原料のパルプに異質な繊維を混ぜ合わせて抄いた紙のことを指す。寄付された千羽鶴、コーヒーの粕、トウモロコシの表皮、生産段階で出た布の切れ端を混ぜたものが存在する。<sup>[5]</sup>

### 3. コンセプト及びアイデア展開

「衣服ロスを知ってもらう」「実行するためのハードルを下げる」という目的でツールの提案を行う。現在の主な対策として、「衝動買いをなくす」「アップサイクル・衣服ロス対策をしている店を選ぶ」「衣服をこまめにメンテナンスする」等が挙げられる。どれも有効な手段だが、以上をこなすには、これから実行する人に精神的負荷がかかってしまう。<sup>[6]</sup>目標は知って、考えてもらうことであるため「興味をもってもらう方法の提案」「新しい手段の提案」「現在の手段を簡易化する方法の提案」を考えることにした。主に興味を持ってもらう方法の提案をメインとし、複合的に検討を行う。

#### 3-1 ハンドブックの提案

現在、B7・A7 サイズで、蛇腹形式のハンドブックをメインに制作している。工場で洋服が完成し、輸送されて販売するまでの流れを説明する。蛇腹製本の特徴を活かし裏面には洋服が完成するまでの負の側面を説明する予定だ。

#### 3-2 リサイクル商品の提案

ハンドブックを手にとってもらうきっかけとして、普段使いしやすい・貰って嬉しい商品の提案を検討している。比較的リサイクル・アップサイクル・リメイク等に抵抗感を覚えにくい若者を主なターゲットとし、提案を行う予定である。「知らない人にも手にとってもらいやすいもの」をテーマに進めていく。具体的な方向として、布を混ぜた紙製品<sup>[図 1]</sup>を考えている。ランプシェード、ペーパーフラワー、アロマディフューザー、パッケージ等、紙の特性を活かしたものを案として挙げている。



[図 1]古布を混ぜた紙の試作

### 4. 今後の予定

リサイクルして出来た紙を使ったプロダクトの制作を進めていく。また、ハンドブックの内容もさらに精査し、推敲を続けていく。

### 5. 参考文献

- [1]環境省-令和 2 年度 ファッションと環境に関する調査業務-ファッションと環境」調査結果：2020,[https://www.env.go.jp/policy/pdf/st\\_fashion\\_and\\_environment\\_r2gaiyo.pdf](https://www.env.go.jp/policy/pdf/st_fashion_and_environment_r2gaiyo.pdf)(2022.09/29)
- [2]環境省- サステナブルファッション：[https://www.env.go.jp/policy/sustainable\\_fashion](https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion) (2022.05/20)
- [2]守屋 貴司：外国人労働者の就労問題と改善策、2018
- [2]法務省-平成 30 年の「不正行為」について：2018,[https://www.moj.go.jp/isa/publications/presentation/nyuukokukanri07\\_00226.html](https://www.moj.go.jp/isa/publications/presentation/nyuukokukanri07_00226.html) (2022.07/29)
- [3]消費者庁-エシカル消費に関する消費者意識調査：2020,  
[https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_education/public\\_awareness/ethical/investigation/assets/consumer\\_education\\_cms202\\_210323\\_02.pdf](https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_education/public_awareness/ethical/investigation/assets/consumer_education_cms202_210323_02.pdf), (2022.09/29)
- [4]木村照夫：衣服の消費と廃棄・循環の実態と課題、2010
- [5]株式会社トッパンインフォメディア-混抄紙ラベルのご紹介, <https://www.toppan-im.co.jp/special/38.html> (2022.10/11)
- [6]YAHOO!ニュース：「サステナブル疲れ」を感じたときにやめてよかった 6 つのこと, 2022,  
<https://news.yahoo.co.jp/articles/cea9c96124d34c98effdd97d7f1108b39e120cc5> (2022.09/24)
- [7]仲村和代・藤田さつき：大量廃棄社会 アパレルとコンビニの不都合な真実、光文社、2019